発行　日本中国友好協会八王子支部　　日本中国友好新聞　付録　　2022年10月15日　第204号

日中友好協会 八王子支部ニュース

みんなで参加・多彩な活動！ 拡げよう・大きな“わ”！ 佐藤副支部長：FAX:042-645-8415

2022. 8. 13

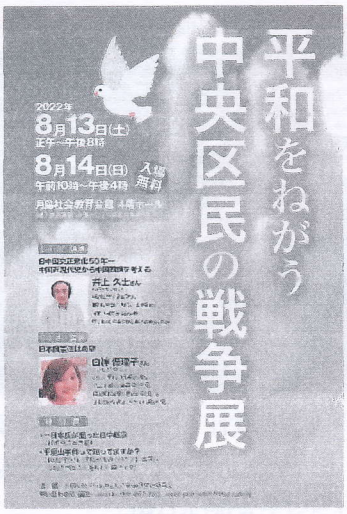
日中国交正常化50周年
井上久士さん講演「中国近現代史から中国問題を考える」

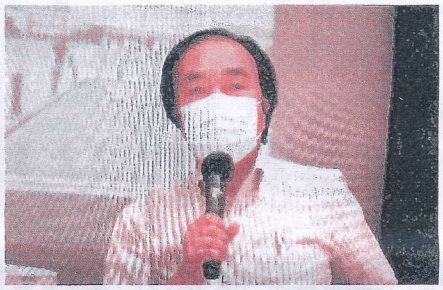
8月13日、中央区の「平和をねがう戦争展」で開催された、井上久士さん（日中友好協会会長・駿河台大学名誉教授）の表記のお話を聞いた。その概要を紹介したい。

1972年9月、田中角栄首相が訪中し日中共同声明が調印され、今年で50年。声明の内容と意義についてまず説明された。調印の2か月前の7月に、米ニクソン大統領が訪中し米中共同コミュニケが発表されているが、これは、**アメリカのベトナムからの名誉ある撤退、ソ連との対抗の思惑と、中国側の文化大革命のなか、反米反ソからの親米反ソへ転換したいとの思惑が一致したためといわれる。**

さて中国の近現代史についてだが、1842年以降、香港、沿海州、台湾等の領土を失い、各地に租界・租借地が置かれ、不平等条約と多額の賠償金を背負い、主権を喪失していった。こうしたトラウマから、中国国民の被害者意識は民族的感情となった。ここでは民主派も愛国主義者であり、**「中華民族の偉大な復興」が中国国民にとっての大きな目標となった。**

1930年代以降の抗日戦争時の蒋介石、毛沢東の戦略「消耗戦と持久戦」は、既に1930年の龔徳伯著『征倭論』において論じられている。即ち、日本は物資不足の小国であるから持久戦によって中国は勝利しうる。具体的には海岸線、それらの都市の放棄→敵を内陸に誘導し補給路を断ち、敵の虚を衝いて撃滅する……そのためには国内の「和平と統一」を早急に実現し、強力な政府の下で不退転の決意を固めなければならない、というものである。





戦後、中華人民共和国成立後も中国は1970年代まで臨戦態勢を維持した。それは① 敵の存在（日本軍国主義はなくなったが）② 朝鮮戦争（抗美援朝）③ アメリカ帝国主義④ 台湾の大陸反攻　⑤ ソ連社会帝国主義（文化大革命期）等への対抗、備えが必要だったからである。（したがって国民の生活に必要な、例えば家電などには全く手つかずだった）

その後、**対米・対日関係の改善を契機に改革開放と沿海部開発が急速に進められる。**深圳等の経済特区指定は1980年である。戦争はしばらく起きないという国際環境の変化とその判断が、毛沢東と鄧小平の重要な相違点である。その後、**一党独裁で強権的ではあるが基本的には安定した社会と、後発の利点や豊富な労働力を活かし、著しい経済発展を遂げた。**

最後に、**「中国は尖閣諸島に攻めてくるか」**について。鄧小平の「タナ上げ論」また2014年「双方は緊張状態について異なる見解を持つと認識し、対話と協議で情勢の悪化を防ぐ…」等の関係改善の話合い等が紹介された。

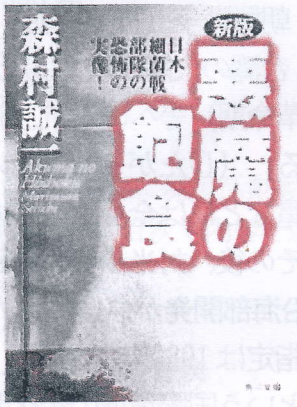
「人民解放軍は台湾を攻撃するか」については、「中国の本音は、台湾は同胞でありいつか必ず統一したいが、戦争はやりたくない」「台湾の民意は独立ではなく、統一指向でもなく現状維持」「日本のメディアが台湾有事を煽るのはミスリード、日本の防衛費拡大の口実に利用されている」等の指摘があった。

井上さんの講演は歴史を広く俯瞰し、また平易な語り口で理解しやすく、私は頭の中を随分と整理することができた。　（記・芝沼）

「731部隊」覚え書き② 毒ガス、細菌兵器開発　五井 信治

前回、中国旅行を通して、戦中日本が中国で何をやっていたのかが私の関心事になったと書きました。

1980年～90年代にかけて、本多勝一さんの『中国の旅』や森村誠一さんの『悪魔の飽食』が話題となり、また『日の丸・君が代』問題も大きく取り上げられ、日本が過去にアジアにおいてどのような加害を与えたのかと言うことがクローズアップされました。

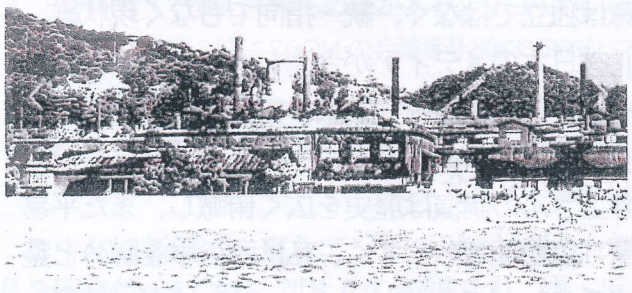


香港では『黒い太陽731』という映画が作られ、日本でもビデオが販売されたり、1993年からは『731部隊展』が全国を巡回し、八王子でも労政会館や、創価大学で行なわれました。

1930年代の日本は、「八紘一宇」（はっこういちう）という思想の下に、世界を天皇の下に従わせようとして、日本を「神の国」と国民に喧伝して、洗脳し、軍国日本に突っ走りました。

軍事力を増強することに血眼になり、陸海軍が競って、軍事予算を増やそうとしていました。世界の情勢は、第1次世界大戦の反省から軍縮をどう進めるのかが大きな課題として、話し合いが、続いている最中です。1925年には、世界の各国は、毒ガス兵器や細菌兵器の戦争での使用を禁止するジュネーブ議定書が提案されました。日本も署名しましたが、批准せず、毒ガス兵器の開発、細菌兵器の開発に力を入れていきました。資源の乏しい日本は、戦争で勝つために、国際条約を無視して、毒ガス兵器や細菌兵器の開発に力を注いだのです。

1929年から広島県の大久野島に毒ガス工場が完成し、本格的に毒ガスを作り出します。



大久野島の毒ガス工場

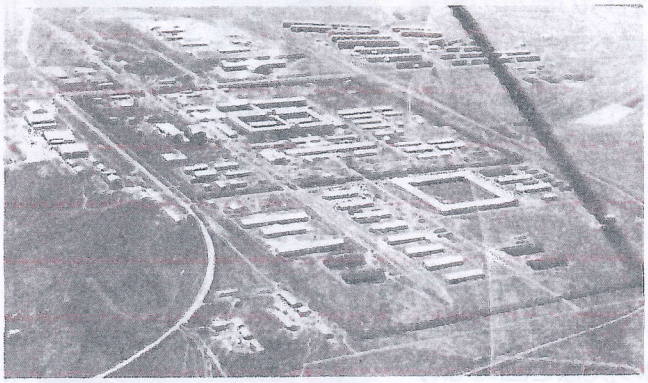
一方、細菌兵器の方は、後に731部隊の初代隊長となる石井四郎が、1928年～30年にかけて、欧米各国を視察に出かけ、細菌兵器の情報を収集し、帰国後陸軍に、細菌戦の準備を力説して回ります。　その結果、陸軍を動かし、1932年に、新宿の陸軍軍医学校内に防疫研究室が新設され、細菌戦の研究が始まります。

石井四郎

1933年には、当時日本の傀儡国家だった「満洲」（中国東北地方）の背蔭河（はいいんが）に、人体実験をして研究を進める施設を作り、本格的にいろいろな細菌実験を行ないました。しかし、1934年に、組織的な脱獄事件が起り、人体実験等が暴露されたため、一旦、閉鎖し、再検討を余儀なくされます。

1936年に、新たに関東軍防疫部が設立され、石井四郎がその部隊長になりました。これが、後の731部隊です。

731部隊の施設は、その後、平房に建設され、1939年～40年ごろに完成しました。



731部隊全景

白根心平による　三国志 ⑮ 伝国の玉璽

曹操軍潰走の報は、連合軍の諸侯にすぐさま伝わった。袁紹は、董卓に策があったことを見破ったため、追撃に消極だったと諸侯に言いふらしたが、孫堅は気持ちが晴れなかった。

孫堅は、自らの陣中に戻ってみると、近くの井戸から何やら神々しい光が発せられていることに気付く。部下に命じ、井戸を捜索してみるとどうやらある死体から光が発せられていることに気付いた。孫堅は、その光を発している死体をさらに詳しく調べてみると、重厚なつくりの煌びやかな宝箱を発見する。これを破壊し箱の中身を見てみると、精巧な作りの印章であった。

孫堅は、その印がいかなるものであるかより詳しく知るため、配下の程普を呼びつけた。程普は、その印をみるや、中華を統べる者たる皇帝の証である伝国の玉璽であると伝えた。孫堅は、何故自己の手元にこの玉璽がもたらされたのかを尋ねると、程普は、天が孫堅に帝位に就き天下の混乱を鎮めるように命じているのであると答えた。

孫堅は、驚きつつも、自軍の状態も戦闘に参加できるような状態ではなかったし、国元に帰るよい機会であると考えた。

翌朝、諸侯の連絡会議において孫堅は国元に帰る旨を伝えるが、袁紹はすでに密使より孫堅が玉璽を手に入れたことを把握していた。そこで、袁紹は孫堅こそ謀反人であると号令し、追悼の軍を向ける。

孫堅軍は袁紹軍の追っ手に散々に打ちのめされる。孫堅は黄河のほとりで天下に号令をかけることを散っていった部下たちに誓うのであった。

孫堅、洛陽の古井戸から玉璽を見つける

先月号「三国志⑳」は「三国志⑭」の間違えです。お詫びして訂正いたします。

山越拓児さんの世相を映す替え歌⑱　「キシダ総理へ」～「北の宿から」

♪あなた終わりが見えている
日ごと支持率下がります
憲法違反の国葬を
世論背いて押し通す
それが総理の
することでしょうか
辞めてください
キシダ総理

♪暮らし苦しむ民の声
上がり続ける物価高
消費減税背を向けて
医療費値上げ強行する
それが総理の
することでしょうか
止めてください
インボイス導入

♪点検したと言うけれど
ボロがつぎつぎ明るみに
反省してると言うけれど
何を反省かわからない
統一協会との
癒着関係
究明できなきゃ
辞めてください

10月16日から始まる第20回中国共産党大会にむけて中国国営メディア発信

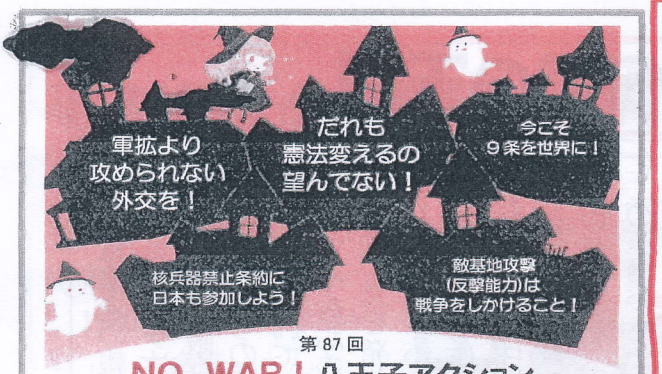
○建国73年を迎える中国の歩みを「立ち上がる時代」(毛沢東思想)→「豊かになる時代」(鄧小平思想)→「強くなる時代」(習近平思想)と位置付け、毛沢東の呼称「領袖」を習主席も同等のイメージを打ち出すため「人民の領袖」とする。　(9/4 新華社)

○9・14～16日、習主席中央アジア訪問へ。外交分野での足固めのため、さらに一帯一路と外交成果を内外に示す。→「非欧米諸国の集約」へ。比較的関係良好な国との協力関係を確立しておく狙い。
(9/14 国営テレビ)

○習主席、三つの国家主席を継続→「党トップの総書記」「軍トップの中央軍事委員会主席」「国家主席」
さらに権威を高める"政治スローガン"として「二つの確立」→党の「核心としての地位」と「政治思想の確立」
(9/16 星島日報・香港)

○外遊は党大会を見据えたもの。「大国の指導者」として振る舞う習主席を繰り返し放映。
(9/14～16 国営テレビ)

世界から尊敬されるリーダー像を演出し、三期目に向けた地ならしとする意図と自信がにじむ。(佐藤一義)



第87回
NO WAR！八王子アクション
10月16日(日)
14時～15時　JR八王子駅　北口　集会

聊聊天会　芥川龍之介と中国旅行

講師：佐久間徹氏
（中国研究家・日中友好協会
東京都連副理事長）
とき：10月23日(日)
13:30～16:00
ばしょ：アミダステーション２階
資料代：500円
問合せ先：中道 042-664-5980

私の本棚　松澤正人

○投稿お待ちしています。
○寄稿いただく場合の送り先；　松澤　正人
e-mail：erhudeniko@gmailcom　FAX：042（664）1642

前回の「戦争中毒」という本を翻訳して日本に紹介した‘きくちゆみ’さんの、ご自身の本を紹介します。

「地球と一緒に生きる」 1993年
「地球を愛して生きる」 2009年
「地球とハートでつながる」 2019年

全てに「地球」の文字が入ったタイトルですが、本を出した年は間があいている。その間に環境活動家だったきくちさんに変化がみられます。目次で内容を追ってみましょう。

＜1冊目＞地球と一緒に生きる
1. 地球＝私のクリーンアップ
2. カリブの宝石―モンキーベイの冒険
3. 地球＝私のカレンダー
4. 夢を追いかけて

＜2冊目＞地球を愛して生きる
1. いのちと暮らしと/環境・原発・六ケ所村
2. 沖縄で起きていること
3. 憲法9条をめぐって
4. 911事件の真相究明

初めの頃は、アースデーなどに海岸のゴミ拾いに参加していた彼女は、ゴミ問題を皮切りに環境汚染の最たるものである原発、そして戦争する社会に対する大きな問題意識を訴えるようになる。住まいも都会から千葉の山奥へ移り、有機栽培の野菜を育てて自給自足の生活をするようになる。しかし、3.11の福島の原発事故による放射能汚染を避けて、日本を離れてハワイへ。（つい最近は、神奈川の大雄山に拠点を構えて、往復するようになるらしい）

＜3冊目＞地球とハートでつながる
あなたが「ハートと調和する」と何が起きるのか　/コネクション・プラクティスとは何か/私がコネプラへたどり着くまで/ハートは答えを知っている/コヒーランスの科学/ラスールの物語　/コネクション・プラクティス実践者から

ここでコヒーランスというのは、呼吸法のような健康法であり、皆がつながる世界を目指す活動がコネクション・プラクティス。世の中の汚れや不正を正そうという行動から、スピリチュアルな世界に行ってしまった感がするが、きくちさんによれば「敵を作らない方法」に変更したそう。

毎朝日本時間の6時から、ZOOMを使ってコヒーランスの活動をされている。私も数か月参加していたが、世の中のおかしな事に物申す方法はやはり裁判だとか、辺野古の座り込みだとか、集会・デモと言った市民運動のようなことを併せて行動してゆく必要があるように思えるのですがどうでしょう。

ご興味ある方は朝6時にZOOMの会議番号808334966（パスコード369）

≪日中友好協会八王子支部日程≫
10月23日(日)　10：00～理事会
13：30～聊聊天会「芥川龍之介と中国旅行」
11月27日(日)　10：00～理事会
13：30～切り絵教室「干支の兎を切る」

日中友好新聞は、東北アジアの平和に役立つ確かな情報と中国の文化・歴史の豊かな情報を持つ、月2回発行のﾀﾌﾞﾛｲﾄﾞ判8Pの新聞です。嫌・反中報道が溢れる中、公正・中立な報道をしています。ぜひご購読下さい。　1ヶ月550円（送料込み）購読申込　042-645-8411：佐藤